

SEVEN HILLS Premium ワインクラブは、ワインをこよなく愛するSEVEN HILLS Premium読者の交流の場です。特別なワインの会や内外のワイン情報を選びすぐってお届けします。

Column

あのクリスティーズでアジア人初のワインスペシャリストとして活躍した、世界に誇る日本女性の渡辺順子さんがお届けするワインコラムです。

渡辺順子のワインに乾杯!

第8回

前号までの話

クロフォード氏の10億ドルのコレクションがかかったディナーが始まり、ラトゥールの香りが部屋に満ちた……

クロフォード氏は本当にチャーミングな人だ。ただしそれは、我が子のように大切にしているワインの話をする時だけ。いざビジネスが関わると、チャーミングさの奥に隠されていた冷淡なまでの判断力とシャープな一面が、途端に表れる。

以前、偶然チャンネルを合わせた「CNBC」の経済番組に、インタビューに答えているクロフォード氏が映った。その姿は私の知っている彼とは全くの別人だった。ワインにモーツァルトを聴かせ、何を何ケース所有していると自慢している無邪気な姿はどこにもなかった。もちろん、テレビに映っていた姿が本来のクロフォード氏なのだろう。

「この魅惑的なワインを口にしても、彼を崩すことは出来ないのだろうか……」

私は「神頼み」ならぬ「ワイン頼み」をしたい心境だった。

当時我々は、年末のオークションの準備も着々と進めていた。通常、オークション開催の3カ月ほど前から出品するワインを集めるのだが、年末に行われるオークションは年間で最も盛大で、高値で落札されることが予想されるため、どのオークションハウスも、この時期に水面下で「目玉」となるワインを集める準備にとりかかる。もちろんそのために、我々のライバルであるサザビーズがクロフォード氏と会ったのだということは、容易に想像できる。ロマネコンティのジェロボーム(4本分)数本や、「Mahler Besse」(マラベス)という、1800年代から続くフランスの老舗ワイン商から数々のレアなワインの出品があった昨年と比べ、今年は年末商戦用のワインが十分に集まっておらず、リチャードのいら立ちは日に日に増していたのだ。



アベタイザーがサーブされた。私とジャスティンが担当するテーブルには4名のゲストが着席し、顔見知りのゲスト達はすぐに会話を花を咲かせている。ダイニングルームには6人着席の丸テ-

ブルが4つ用意されており、正面のテーブルにはリチャードと、ハーバードのMBAホルダーのディーニという才女が座っている。MBA保持者がなぜワインスペシャリストになったのか、その経緯はまだ聞いていないのだが。

リチャードの視線がこちらに向けられているのがわかったが、プレッシャーに感じないように、私は自分のテーブルの会話に意識を集中させた。



最初に運ばれてきた鴨と野菜のテリーヌに合わせて、ラトゥールの86年が振る舞われた。鴨を使っているとはいえ、アベタイザーに合わせて、最初からラトゥールを出すというのは、通常考えられないスタートであり、社内でもこっそり目のリースリングなど白ワインから始めようという意見もあった。しかし、どうやらこのスタートに不満を抱いたゲストはいないようだ。今日の主役はラトゥール。どの場面からお出ましになっても大歓迎なのだ。

クロフォード氏は既にも上機嫌である。「なめし皮とマッシュルームの香り」とジャスティンが嗅ぎ分けたラトゥールの86年を気に入ったようだ。あのロバート・バーカー氏はこのワインに90点を付けている。ラトゥールにしては高い点数ではないが、タンニンは強いがまるやかで、ピロードのような舌触りだ。

最高のスタートとなった。



渡辺順子(わたなべじゅんこ)

1989年、ニューヨーク移住。ニューヨーク大学に通う傍ら、日系企業に勤務しファッション関連の会社を設立。「シャトー・ベトリュス」を飲んでワインに魅せられ、ワイン留学のため渡仏。NYに戻り、2001年より世界最大オークションハウス、ニューヨーク・クリスティーズでアジア人初のワインスペシャリストとして活躍。2009年に退社し、ワインコンサルタントとして株式会社FIFTHに所属。韓国、NY、日本でワインのセミナー、イベントを開催。欧米のコレクターやワイン商と取引し、アジア諸国に向けて事業展開する。アメリカソムリエ協会 ソムリエ認定、パリコルドンブルー ワインプログラムのサティフィケート、ボルドープロフェッショナルワイン協会 ディプロマ、WSET アドバンス サティフィケート
<http://www.winewiki.jp> <http://wine.choippin.com>